

目次

まえがき 日本原子力技術は世界一——3

序章 人類は、どう原子力を発見したか？——13

反原発から反捕鯨という流れ——14

それは軍事利用から始まった——15

平和利用に道を拓いた、アイゼンハワー演説——18

イギリス型が採用された炉型——19

原発スパイ事件から始まったソ連の核開発——20

意外な核先進国・インド——21

人民がスポンをはけなくても核兵器を造る中国——23

非核保有国が提案した核拡散防止条約——24

国連はけっして万能ではない——27

平和は核の均衡によって保たれた——28

核の平和利用には、相応の決意と覚悟が必要——30

第一章 日本人は、どう原子力と付き合ってきたか？——37

日本にもあった原発計画——38

ハンディとなつてしまった、戦後10年のブランク——40

かつてはあった、原発とマスコミの蜜月時代——44

ファクションとなつた反原発——46

反原発の教祖誕生——48

ソフトエネルギーの利用が、反原発と抱き合わせにされた——50

「すべての原発を見よう」——54

原発建設は、地元対策から始まる——57

日本の原発はすべて海に面している——60

ナマコの好きな人は、原発反対？——62

ピンチに立つた伝統の漁法——63

上から目線では原発は造れない——65

高度成長で裏切られ、取り残された地方——67

原発の熱で養殖漁業——70

第二章 世界は、軽水炉を推進する方向へ、舵を切つた——73

2位から3位に転落した原発大国・日本——74

3000社もあるアメリカの電力会社——78

原発技術大国・イギリスの凋落——81

世界を覆つたチェルノブイリの恐怖——83

原発を止めると、エルミタージュ美術館が真っ暗に！——86

核兵器としての核開発をつづけた中国——87

中国は電力需要の急増で、大慌てで原発建設——90

核先進国・インドの挑戦——トリウム原子炉——91

最大の脅威は、北朝鮮の核——95

北の言いがかりで破綻したKEDO（朝鮮半島エネルギー開発機構）——97

北朝鮮の核の真相——99

北の核実験は、成功か失敗か？——102

第三章 放射能とは何か——原子、核、放射能などに関する常識、非常識—— 105

- 原子力を正しく理解しよう—— 106
- 地球に実在した天然原子炉—— 109
- 宇宙から降り注ぐ放射線—— 115
- 放射線は地面からも出ている—— 116
- ビルトダウン原人の謎—— 118
- 世界の主流は軽水炉—— 120
- 原子はどういう構造になっているのか—— 123
- 原子の青い火が見えた！—— 127
- 地震が証明した日本原発の安全性—— 129
- ウラン節約の鍵となるプルサーマル運転—— 131

第四章 原発商戦 技術大国日本は、ビジネスチャンスを生かせるのか—— 141

- 甦る原子力—— 142
- 知られざる原発大国・韓国—— 144

- CO₂を出さない原発は、排出ガス規制にうってつけ—— 145
- 原発計画を強行する中国—— 147
- WH社の悲劇—— 151
- 東芝、WH社を買収—— 152
- 原発復活へ歩みはじめたドイツ—— 156
- 世界一の老朽原発大国アメリカ—— 163
- アメリカ原発商戦に日本が進出—— 165
- 変わりつつある国際コンソーシアム—— 169
- 日本、韓国に敗北—— 171
- 日本を研究しつくした韓国—— 173
- 「トランジスタラジオのセールスマン」という、政界のトラウマ—— 174
- 政・官・民の協力が不可欠だ—— 176

第五章 日本の原子力技術を世界に—— 179

- 機密の多い原子力技術—— 180
- なんと世界シェアの8割をしめる部材も—— 181

- 匠の技が生きる原子炉——184
- 一括受注を目指す東芝グループ——186
- 水ビジネスの轍を踏んではいけない——187
- 日本の最大のライバルは、仏アレヴァ社——189
- ゲリラ的受注に走るロシア——192
- 廃炉解体と日本の技術——196
- イギリスこそが、ヨーロッパ進出の鍵——198
- これからの原発建設が期待できる大国インド——200
- 夢の原発・トリウム炉を支援しよう——203
- ベトナム原発の受注に成功——207
- ウラン資源の獲得は、カザフスタンから——208
- 自虐的だった前経産相インタビュ——210
- 世界—安全な日本の原発——212
- 外国に謙遜は通じない——215
- 国を挙げて、原発の海外展開へ——218

あとがき 原子力の今後に向けて——

221